

DVD(動画)を活用した嘔吐物処理方法の啓発

仙台保健福祉事務所(塩釜保健所) 疾病対策班

○技師 小泉奈穂美, 技術主幹(班長) 千葉さとみ, 技術主幹 八巻直恵,
主査 角田ゆか, 技術主査 高橋朋子

Key words: トイレ・嘔吐物処理・情報の見える化

I はじめに

感染性胃腸炎は冬期に起こりやすく, 集団生活や空間の共有により集団発生しやすいという特徴がある。昨年度, 集団発生があった施設調査では不適切な消毒や嘔吐物処理の方法が散見され, 中でも, トイレ内での嘔吐・下痢後の対処が不適切だったことから感染が拡大したと思われる事例が多かった。このことから, 特に集団感染リスクの高い乳幼児や高齢者が利用する社会福祉施設等の職員に対し, 適切な嘔吐物処理方法を具体的に見せる必要があると考えた。

そこで, 感染症予防対策に関する基礎知識や技能の習得支援を行う目的で, 嘔吐物処理の方法について動画を作成し, セミナー等での教材に活用することにした。

II 活動内容

(1) 動画の作成

具体的な嘔吐物処理の方法を啓発するため, 動画を作成した。内容は, 「基本編」と「応用編(トイレで嘔吐した場合)」の2部構成とし, 誰が見ても理解しやすく実践できるものにした。

「基本編」は, お粥などを使った嘔吐物を作り, 1m程の高さから嘔吐した状況を再現した。そうすることで, 嘔吐物が放射状で広範囲に飛散することが分かる。また, 消毒液の作り方, 個人防護具(PPE)の着脱, 嘔吐物の処理方法やゴミの片付け方について紹介した。

「応用編」では, トイレ内で嘔吐した場合の対応についてまとめた。トイレの消毒は後回しになりやすく徹底されていない現状があることから, 応用編として取り上げた。現場では, 臨機応変に対応することが求められるため, 基本編を理解することで, どのような状況でも応用できることを伝えた。

(2) 感染症予防対策セミナーでの活用(平成27年11月19日開催)

学校や社会福祉施設等の職員を対象とした感染症予防対策セミナーを開催した。動画による実践指導の他, 参加者が普段利用している個人防護具(PPE)を使用した着脱方法の訓練を行った。また, 事後アンケートで, 参加者の嘔吐物処理や個人防護具着脱への認識調査を実施した。

(3) ホームページによる感染拡大の予防啓発(情報の見える化)

誰もがいつでも嘔吐物処理の方法を学ぶことができるよう, 動画コンテンツ「YouTube」を活用し, ホームページに掲載することで, 感染性胃腸炎の感染拡大予防について啓発した。

III 考察

- 感染症予防対策セミナーにおいて, 動画による実践指導を行ったことで, 「嘔吐物処理の動線を理解することができた」等の感想があり好評だった。事後アンケートでは, 約半数が「嘔吐物処理を全ての職員が実施できるわけではない」と回答していることから, 施設内で, 動画を活用した嘔吐物処理方法を学ぶ機会を持つことが有効であることが再認識できた。
- ホームページに動画を掲載することにより, 誰でも実際の処理方法を見て学ぶことができるようになった。施設等における職員教育の教材としても手軽に使用することができる。
- 専門家の指導のもと動画を作成したことで, 保健所職員のスキルアップにつながり, 施設調査においても, より実践的な指導をすることができるようになった。

IV 結論

動画を作成しホームページに掲載することで, 日ごろ学ぶ機会が少ない施設職員に対しても動画を使った嘔吐物処理の方法を学ぶことができるようになった。

今後は, 出前講座や感染症の注意喚起をする際など, あらゆる機会を活用し, 多くの人に適切な嘔吐物処理方法のノウハウを身につけてもらい, 感染性胃腸炎のまん延予防に努めてもらえるよう働きかける。